

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- ・自ら学び粘り強く学習する態度を育て、基礎学力の定着をめざします。(知)
- ・誰もが安心して豊かに生活できる、挨拶と笑顔のあふれる学校をつくります。(徳・体・公)
- ・積極的に社会参加し、地域の人達との関わりを大切にすることを育てます。(公・開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈主体的な取組で問題を解決する能力〉	具体化した資質・能力
〈コミュニケーション能力〉	○協働的に解決策を見出し実行する能力 ○人々と協働・協調するコラボレーション能力 ○他者を理解する態度・自己を理解する姿勢
〈自分づくりに関する力〉	

中期取組目標

1. 一人ひとりの生徒を大切にしたい分ける授業を推進し、学力の向上を図ります。
2. 人権尊重の精神を基盤とした教育を推進し、暴力や差別のない、挨拶と笑顔のあふれる学校づくりを進めます。
3. 生徒や保護者の思いを大切に受け止め、相互の信頼感と相手意識をもって柔軟な学校づくりを目指します。
4. 地域の温かさ大切さを語り継ぎ、「地域とともに歩む学校」の実現に向けて努力します。
5. 教職員が、社会的な視点・要請を自覚し、危機意識と当事者意識をもって学校運営に取り組みます。
6. 六中 6つの「あ」を実践します。(挨拶・当たり前・相手意識・安心・安全・新たな自分作り)

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
自尊感情を育てる授業づくり	①指導・評価方法の研究を通して、主体的に学習に取り組む生徒を育てる ・指導・評価方法に関する実践研修(学習指導要領の研修) ・生徒による授業評価 ・研究授業 ②協働的な体験を通して、問題解決能力と実践力を育てる ・学年・学級活動 ・グループ活動
担当	学習指導部・キャリア指導部

学力向上に関わる本校の状況

・授業に取り組む姿勢は悪くないが、学習習慣が身に付いていない生徒が多く、学力の向上につながっていない。
・配慮を要する生徒が増え、個々への対応が困難になってきている。指導体制の構築が課題である。
・教員は人権の視点に立った授業改善に取り組み、自尊感情の育成に力を入れている。
・全体的に、学力については横浜市の平均値から下回る教科が多い。学習意識については教科ごとや学年ごとにはばらつきが見られる。学習に向かう意欲を大切にしながらも基礎学力を固める必要がある。平成23年度から令和3年度10年間の変化を見ると、学校全体としては、学習意識に関しては年度ごとの差はあるが、少しずつ高まっている。しかし、学力に関しては、市の平均と比べ下回っている年度が多い。
○国語科:3学年ともに「情報活用」の力が平均よりやや低い。文章の内容理解や、情報の活用を工夫して、伝え合う力を伸ばす必要がある。
○社会科:学力は市の平均と同じ程度に位置している。単元ごとの学習課題を解決していく授業を継続して実践して、基礎基本の定着や社会的な見方・考え方を育成する指導を心掛けていきたい。
○数学科:学習意識は2年生で市平均を上回り、1年生では市平均に近くなった。丁寧な授業展開を心がけた成果が少しは出ている。学力は、3年生で市の平均くらいではあったが、1、2年生では下回っている観点が多い。意識が高まってきているので演習量を増やすなど基礎学力の定着に力を入れて、学力を伸ばしていきたい。
○理科:全体と比べてみると、地学や生物分野は市の平均と同じ程度に位置している。しかし、物理分野の平均が市の平均を下回っている。観察・実験を行う上で楽しみながら、基礎を定着させていきたい。
○外国語科:学力は市の平均と同じ程度、市の平均を下回っている学年もある。基礎の知識や技能の定着に力を入れつつ、英語での情報を読み取ったり、場面に合わせて表現するなど、英語を活用する力を高めら

今年度の目標

生徒の「わかった」「できた」という瞬間を大切にする。ICTの活用する。見直し・振り返りを大切にしたい授業づくりを行い、生徒による授業評価等で検証し、授業改善を進める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
国:漢字等基礎的・基本的な内容を計画的に反復学習させ、日常生活で活用できることを目指す。 社:思考判断表現力を高めるため、単元の学習課題を明確にして授業を構成する。 数:生徒が粘り強く取り組めるよう分かりやすい授業を心がけ、基礎・基本の定着を図る。 理:予想や考察など考える活動を積極的に設ける。 音:コミュニケーション能力を向上させる活動を取り入れ、協働的に取り組む姿勢を育てる。 美:生活の中に関わるものや事柄に、美術的な視点を結びつけた内容で、興味関心を引き出す。 体:自己や仲間との状況を理解し、課題解決を図る力を育成する。 技:実践的な活動を充実させ、実生活と結びつけた授業を行うことで、関心・意欲の向上を図る。 英:実際のコミュニケーションにおいて活用できる、聞く、読む、話す、書く技能や思考判断を働かせる活動を充実させる。	国:情報活用を伸ばし、目的や場面、意図等を意識して考えを伝え合う力を培う。 社:ICT機器を利用し、写真・地図・グラフなど視覚的な情報を多く提示し内容の理解につなぐ。 数:クローズドブックを活用して生徒自身が自ら力で多くの問題を解けるように丁寧にフォローする。 理:身近なものや学習内容を結びつけて思考することで、意欲をさらに向上させる。 音:鑑賞や創作では他教科領域の学習と関連付け、多角的に考え主体的に学ぶ展開を目指す。 美:ICT機器をさらに活用したわかりやすい資料提示、実技見本、鑑賞活動を展開する。 体:自己や仲間との状況を理解し、課題解決を図る力を育成する。 技:ICT機器を活用し、実技見本等をよりわかりやすくし、ものづくりでのつまづきの軽減を図る。 英:ワークなどの知識の定着と共に、いろいろな場面設定の中で英語を使う場面を設定していく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①生徒一人ひとりの人権意識と自尊感情を育てる ・挨拶運動 ・人権週間の取組 ・金沢ブロック人権研修 ・校内人権研修 ②生徒理解を深め、課題の予防・早期発見・早期解決に組織的に取り組む ・生活アンケート ・YPアセスメント ・学年間での情報交換 ・SC、SSWなど専門機関との連携 ③誰もが安心して豊かに生活できる環境を作る ・個別支援教育研修 ・個別の支援計画・指導計画の作成・実施・振り返り ・特別支援教室の運営
担当	生徒指導部

豊かな心に関わる本校の状況

- 社会の変化に対応する自立心、規範意識や善悪の判断のさらなる定着が求められる。
- 相手意識を向上させ人権意識を高める必要がある。

今年度の目標

全教育活動を通して道徳教育・人権教育の充実を図る。他者との関わりや豊かな体験を通して自尊感情・自己肯定感を高める。家庭・地域との連携を図り多くの人と関わることで、コミュニケーション能力を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
「道徳の時間」の充実 ・道徳の授業を充実させ、家庭・地域に公開する。 ・道徳教育や人権教育について、家庭・地域に発信する。 確かな人権感覚・意識の育成 ・人権教育全体計画に基づいて教育活動を行い、授業をはじめとした「学習活動づくり」において人権が尊重される「人間関係づくり」を推進する。 ・教員の人権感覚、人権意識を向上させ、人権が尊重される授業作りを行うために、校内研修やブロック内研修の充実を図る。	「道徳の時間」の充実 ・道徳の授業を充実させ、家庭・地域に公開する。 ・道徳教育や人権教育について、家庭・地域に発信する。 確かな人権感覚・意識の育成 ・人権教育全体計画に基づいて教育活動を行い、授業をはじめとした「学習活動づくり」において人権が尊重される「人間関係づくり」を推進する。 ・教員の人権感覚、人権意識を向上させ、人権が尊重される授業作りを行うために、校内研修やブロック内研修の充実を図る。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①自他の命を大切にできる健やかな心と体を育てる ②食への関心を育て、食事の重要性を理解し、健康な食生活が実現できるようにする ・保健体育 ・体育祭 ・避難訓練 ・中学校給食の取組 ・保健室だよりを活用した保健指導
担当	生徒指導部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体にかかわる児童生徒の実態
保健体育の授業や体育祭、球技大会の学校行事には、全体的に前向きに取り組んでいる様子である。仲間との交流を通して、運動に親しむ機会を大切にしている。
新体力テストの結果からは、全体的にどの体力要素も平均を下回っている傾向がある。
継続的に運動を実施し、健康を保持増進するために、体力向上を目指し、計画的に運動する機会を作っていく必要がある。
(2)これまでの学校の取組状況
・新体力テストの実施、振り返り
・体育祭大綱の実施(朝総合20分間、昼休みの練習)
・球技大会の実施
・昼休みボールの貸し出し

今年度の目標

○生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育て、仲間との豊かな関わりを通して、学び合う態度を育成する。健康を保持増進するための実践力と体力向上を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
○保健体育の授業 ・仲間とのかかわりの中で学びあう時間を大切に授業を展開する ・新体力テストの実施と結果から、体力向上への意識を高める ・食事の重要性を単元の中で伝えている ○学校行事「体育祭」 ・全学年、クラス単位で大縄を実施し、仲間との交流の中で活動する ・朝総合20分間、昼休みに練習を実施し、体力向上を図る	○昼休みのボール貸し出し ・体育推進委員により昼休みボールの貸し出しを行い、交流や運動機会を増やす
○保健体育の授業 ・仲間とのかかわりの中で学びあう時間を大切に授業を展開する ・新体力テストの実施と結果から、体力向上への意識を高める ・食事の重要性を単元の中で伝えている ○学校行事「球技大会」 ・学年ごとに、球技大会を実施し、仲間との交流の中で活動する ・練習期間を設けて、体力向上を図る	○昼休みのボール貸し出し ・体育推進委員によりボールを昼休み貸し出しを行い、交流や運動機会を増やす